



いま、あたらしいことを。いつか、あたりまえになることへ。

---

## 2025年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

---

2024年8月9日

**SWCC株式会社**

1. 2024年度第1四半期決算概要
2. Appendix

# 1. 2024年度第1四半期決算概要

---

# 2024年度 第1四半期決算 概況

## 経営環境

- 脱炭素社会への進展やデジタル化に向けた投資拡大。
- 2024年問題を背景とする工事案件の年間平準化の動き。
- 自動車関連市場では、一部自動車メーカーの生産・出荷停止による調整局面。
- 電線業界においては、電線全体の需要は横ばい。
- 銅の国内建値平均価格は、前年同四半期より上昇。

## 売上高

エネルギー・インフラ事業の業績好調により、1Q実績は前年同四半期比増収。

【主な事業分野別状況】

**エネルギー・インフラ**・・・建設関連向け好調、電力インフラは特需に加え、工事案件も好調。

**自動車**・・・・・・・・調整局面にありつつも、xEV向け高機能製品の需要は復調。

**通信ケーブル**・・・・・・・・建設関連向けおよび車載向け需要が堅調に推移。

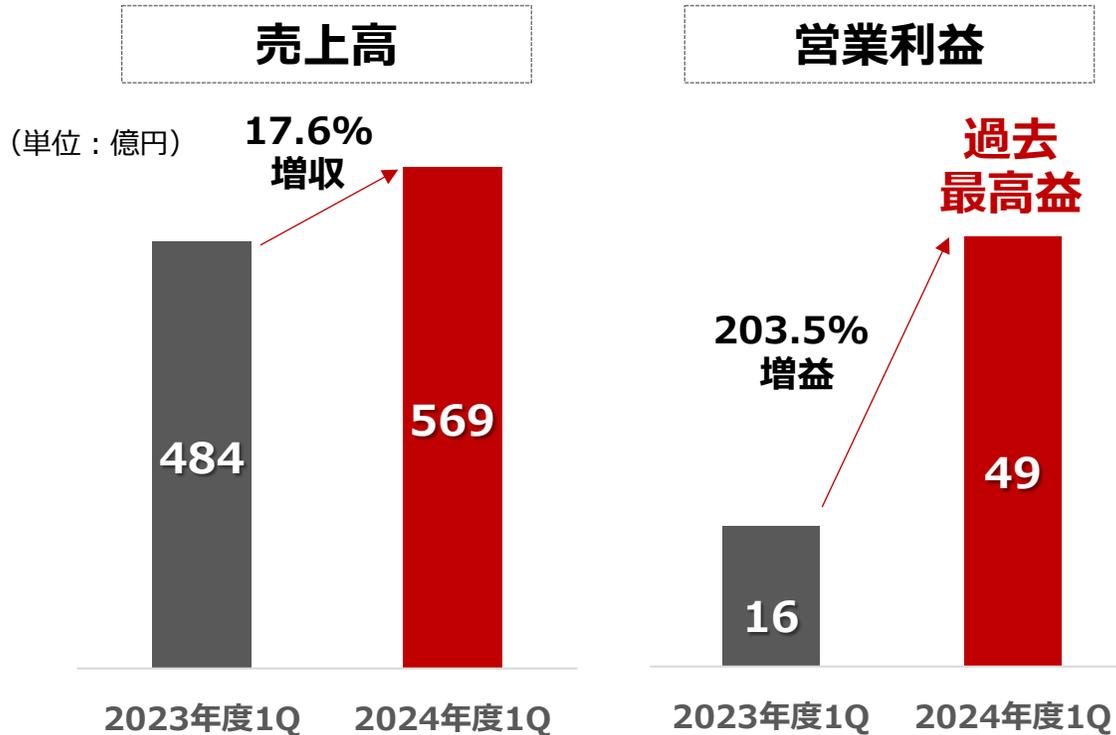
## 営業利益

昨年度から継続する底堅い電線需要に加え、高収益件名の特需により、  
期初想定を大きく上回り進捗。前年同四半期比増益。

# 2024年度 第1四半期決算のポイント

## 1Q前年同四半期比

底堅い電線需要、工事の平準化、高収益件名の特需により増収増益。



## 1Q進捗率

売上高の進捗率は例年並みも、営業利益については高収益件名の特需により、例年を大きく上回る進捗。

(単位: 億円)	通期計画	FY19-23 平均進捗率	1Q進捗率
売上高	2,250	23.1%	25.3%
営業利益	135	17.2%	36.1%

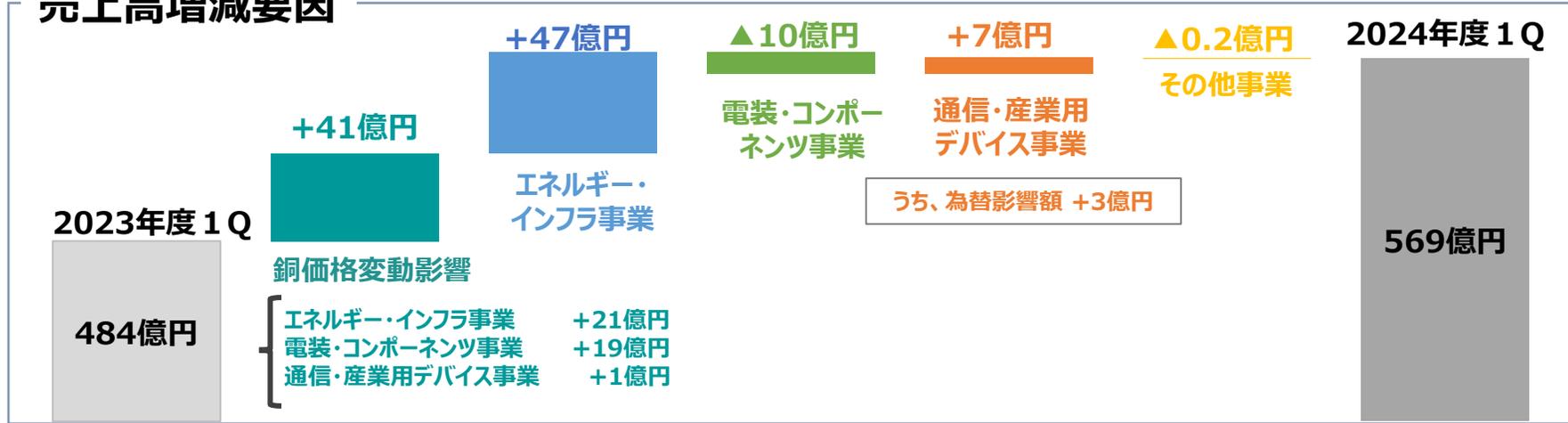
# 2024年度 第1四半期連結業績 P/L

エネルギー・インフラ事業の1Q業績が当初想定を上回り推移。  
今後も好調を維持すると見込むも、通期の業績予想については、当四半期時点では据え置き。

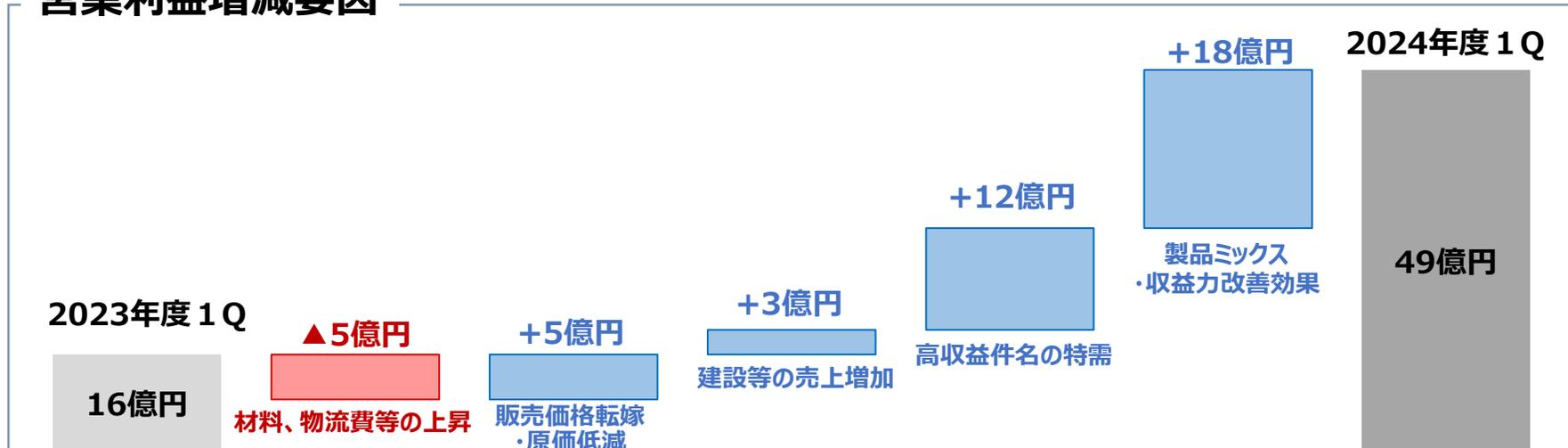
(単位：億円)	2023年度 1Q実績	2024年度 1Q実績	2024年度 通期計画	前年同 四半期比 %	進捗率 %
売上高	484	569	2,250	17.6%	25.3%
営業利益	16	49	135	203.5%	36.1%
営業利益率 %	3.3	8.5	6.0	—	—
経常利益	16	46	130	189.4%	35.6%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	12	29	90	148.3%	32.5%

# 2024年度 第1四半期 増減要因 (前年同四半期比)

## 売上高増減要因



## 営業利益増減要因



### 【増減要因】

1. 売上高  
期初想定の国内建設関連向けの需要反動減もなく、牽引事業好調により、**前年同四半期比増収。**

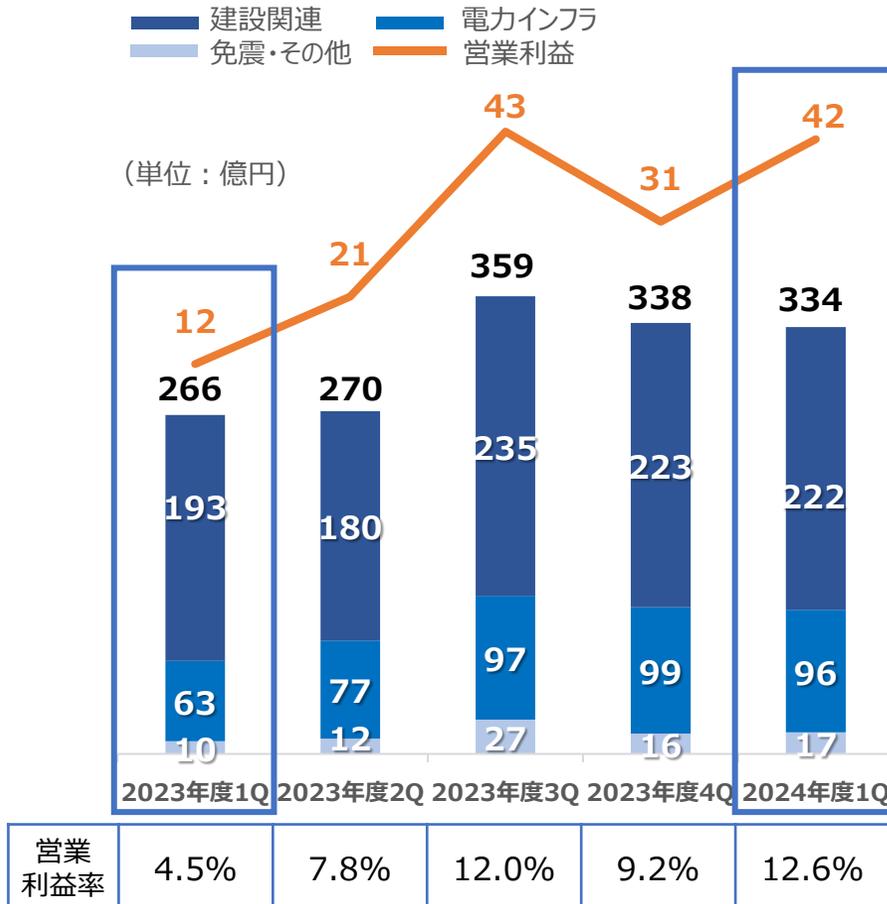
2. 営業利益  
原材料価格、物流費の上昇については、販売価格転嫁と原価低減でカバー。建設等の売上増加に加えて、高収益件名の特需や収益力改善効果により、**前年同四半期比大幅増益。**

### 【今後の取り組み】

2Q以降の出荷に備えて適正な在庫を確保。

# 2024年度 第1四半期 セグメント業績 エネルギー・インフラ事業

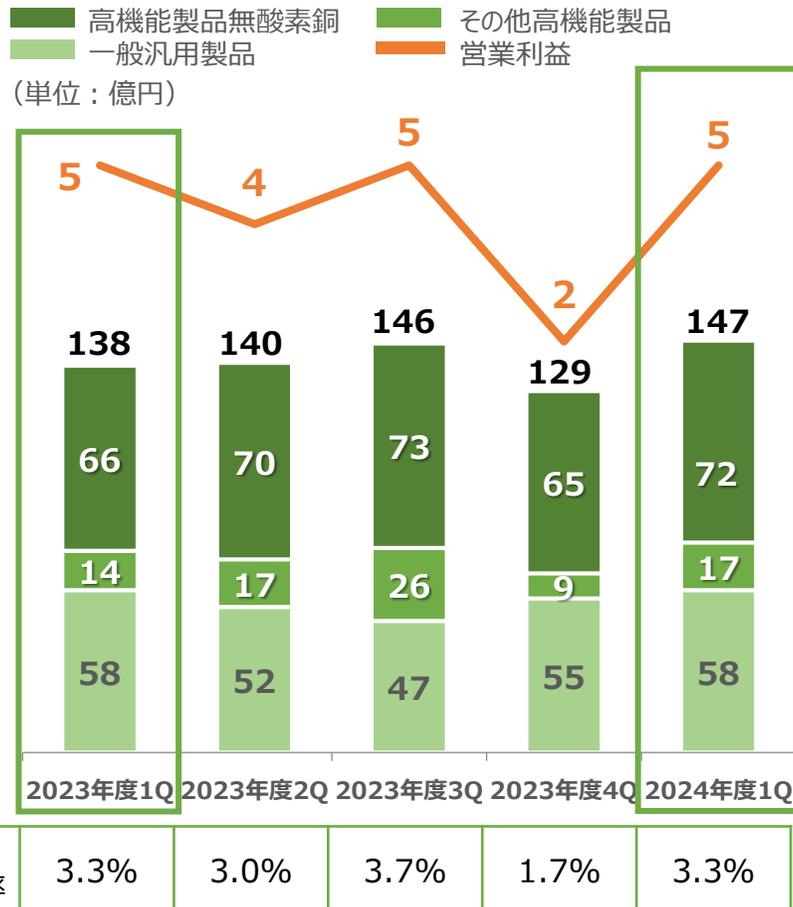
昨年度下期から続く堅調な国内建設関連向け電線需要に加え、電力インフラ向けの高収益件名の特需、さらには電力工事案件の平準化と各種収益改善施策の実施により、**前年同四半期比増収（25.6%増）・増益（253.9%増）**。



事業環境変化による影響	
銅価格変動影響	+21億円（1Q売上高影響）
原材料・エネルギー・物流費高騰	高騰は続くも、価格転嫁ならびに原価低減を進め、収益を確保。
為替影響	なし
通期需要見通し	<p>建設関連向けは、高位安定で電線需要が継続。電力インフラ向けは、国策を背景とする需要増および戦略製品SICONEX®のデファクトスタンダード化によりシェア拡大、さらに電力工事案件の平準化を見込む。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p><b>SICONEX®製造量</b></p> <p>※ FY2023末の実績を100%とした場合</p> <div style="display: flex; justify-content: center; gap: 20px;"> <div style="text-align: center;"> <p>115%</p> <p>1Q実績</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>140%</p> <p>2Q見込み</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>135%</p> <p>通期見込み</p> </div> </div> </div> <div style="text-align: center;"> <p><b>電力工事</b></p> <div style="display: flex; justify-content: center; gap: 20px;"> <div style="text-align: center;"> <p>例年</p> <p>↗</p> <p>上期 下期</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>今期</p> <p>→</p> <p>上期 下期</p> </div> </div> </div> </div>

# 2024年度 第1四半期 セグメント業績 電装・コンポーネンツ事業

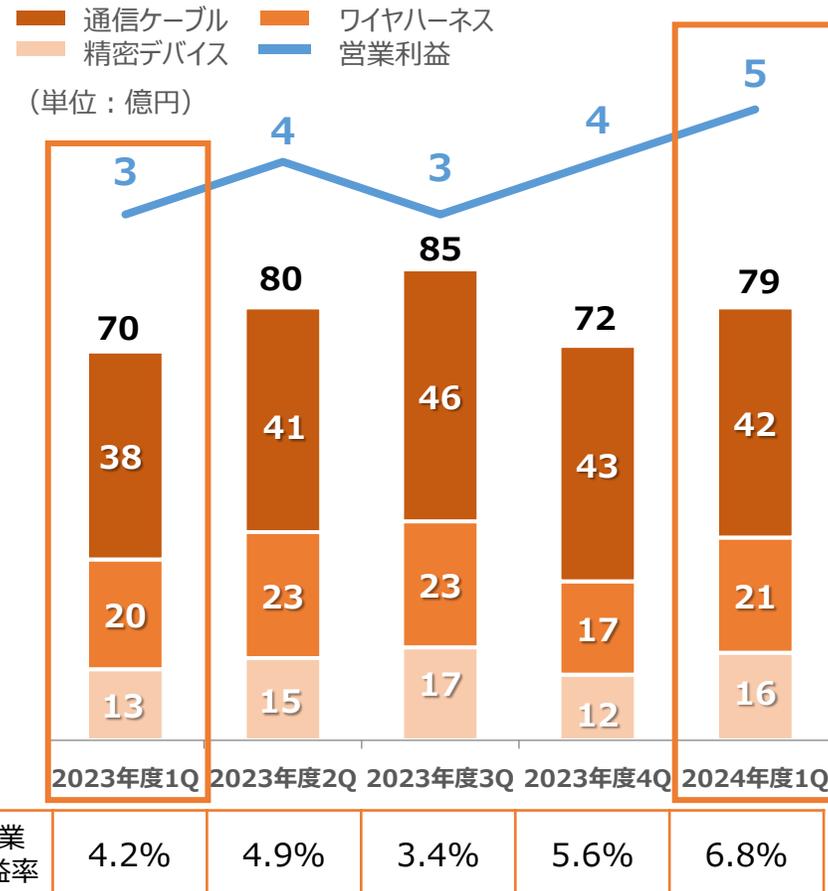
xEV向け高機能製品は調整局面にありつつも1Qは復調。重電向け汎用巻線も堅調に推移。**前年同四半期比増収（6.3%増）・増益（6.6%増）。**



事業環境変化による影響				
銅価格変動影響	+19億円（1Q売上高影響）			
原材料・エネルギー・物流費高騰	高騰は続くも、価格転嫁ならびに原価低減を進め、収益を確保。			
為替影響	なし			
通期需要見通し	<p>xEV向け高機能製品は、1Q復調、2Qは調整を想定するも、下期は需要回復の見通し。</p> <p><b>今期高機能製品出荷量イメージ</b></p> <table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;">             MiDIP®            FY2023対比微増              上期 下期         </td> <td style="text-align: center;">             ヒータ線            FY2023対比微増              上期 下期         </td> <td style="text-align: center;">             高機能巻線            FY2023対比大幅増              上期 下期         </td> </tr> </table>	 MiDIP® FY2023対比微増  上期 下期	 ヒータ線 FY2023対比微増  上期 下期	 高機能巻線 FY2023対比大幅増  上期 下期
 MiDIP® FY2023対比微増  上期 下期	 ヒータ線 FY2023対比微増  上期 下期	 高機能巻線 FY2023対比大幅増  上期 下期		

# 2024年度 第1四半期 セグメント業績 通信・産業用デバイス事業

通信ケーブルは、建設関連向け、車載向けともに需要堅調。ワイヤハーネスは、中国および国内における白物家電市場鈍化の影響を受けるも、精密デバイスは需要回復。**前年同四半期比増収（12.3%増）・増益（82.1%増）**。



事業環境変化による影響	
銅価格変動影響	+1億円（1Q売上高影響）
原材料・エネルギー・物流費高騰	高騰は続くも、価格転嫁ならびに原価低減を進め、収益を確保。
為替影響	+3億円（1Q売上高影響）
通期需要見通し	<p>通信ケーブルは建設関連向けおよび車載向け需要堅調。ワイヤハーネスは家電向けは低調。精密デバイスは需要回復。</p> <p><b>今期通信ケーブル出荷量イメージ</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>建設関連向け</p> <p>FY2023対比増</p> <p>→</p> <p>上期 下期</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>車載向け</p> <p>FY2023対比増</p> <p>→</p> <p>上期 下期</p> </div> </div>

# 2024年度 第1四半期連結業績 B/S (前期末比較)

(単位：億円)	2023年度末	2024年度1Q	増減
<b>資産合計</b>	<b>1,616</b>	<b>1,675</b>	<b>59</b>
売上債権	515	512	▲3
棚卸資産	290	323	33
固定資産	672	677	5
<b>負債合計</b>	<b>845</b>	<b>883</b>	<b>38</b>
仕入債務	260	296	36
有利子負債	303	358	55
<b>純資産合計</b>	<b>771</b>	<b>792</b>	<b>21</b>
自己資本	759	781	22
自己資本比率(%)	47.0	46.6	▲0.3
<b>DEレシオ(%)</b>	<b>40</b>	<b>46</b>	<b>6</b>

### 【棚卸資産】

銅価格上昇ならびに2Q以降の出荷を見越した適正な在庫確保のため増加。

### 【有利子負債】

配当ならびに賞与支払い等により増加。

### 【自己資本比率】

業績好調により自己資本は積みあがるも、2Q以降の出荷に備えた棚卸資産の増加等により、前期末対比0.3ポイント減。

### 【DEレシオ】

自己資本は積みあがるも、有利子負債も増加したため、前期末対比6ポイント増。

### <現状の課題認識と今後の対応策>

各種BS改善施策は継続も、原材料価格高騰および2Q以降の出荷に備えた適正な在庫確保のため棚卸資産が増加。  
引き続き、適正な水準での在庫の確保と、債権回収期間の短縮を進めることで、改善を進める。

## 2 . Appendix

---

国立大学法人和歌山大学が保有するポリュメトリック技術とSWCCが保有するAVR®技術の連携により点検者を現場に直接転送する新たなAVR®システム：ADTPS(Advanced Digital Transporter System)を開発

## ADTPSのイメージ

AVR®空間にポリュメトリック技術によるホログラムを組み込むことにより、まるで「どこでもいけるドア」のごとく、リアルタイムに離れた空間、あるいは過去の空間に点検者を転送



### <インフラ業界の現場に展開>

- 会議室から、狭小マンホール内や鉄塔上などの制限のあるインフラ現場へ点検者を転送
- 人手不足、安全性の向上などの社会的課題を解決

### サービス化・販売（2025年度目標）

◆ 7/17 ニュースリリース

[https://www.swcc.co.jp/jpn/news/detail/2024/news\\_6539.html](https://www.swcc.co.jp/jpn/news/detail/2024/news_6539.html)





**SWCC株式会社**

<https://www.swcc.co.jp>

本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。  
このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。  
実際の業績に影響を与えうる要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。  
なお、業績等に影響を与えうる要素は、これらに限定されるものではありません。